

中級フランス語学習者によるテキスト朗読 —経年的観察—

バルカ コランタン(東京外国語大学博士前期課程)

伊藤 玲子(東京外国語大学博士後期課程)

関 敦彦(東京外国語大学博士後期課程)

川口 裕司(東京外国語大学)

2017年12月16日

外国語教育学会第21回研究報告大会

於:東京外国語大学

発表のながれ

1. 本研究の目的
 2. 研究方法
 3. 経年的進歩の分析(分節音・言い直し)
 4. 経年的進歩の分析(知覚テスト)
 5. 結論
- 参考文献

1. 本研究の目的

フランス語学習者の朗読の進歩

規範内的進歩 : 分節音の発音、読み違い、等

規範外的進歩 : 休止、朗読時間、分かりやすさ、
抑揚、流暢さ、等

以上の2つの観点から

日本語を母語とする中級フランス語学習者の
経年的変化を分析

2. 研究方法

◆ 調査

- 同じインフォーマント
- 時間をおいて2度
 - 1回目：2016年1月下旬～2月上旬
 - 2回目：2017年2月上旬
- 同じタスク

2. 1. インフォーマント情報

インフォーマント: 日本語母語話者女子大学生 6人
(文学部外国語学科フランス語専攻)

		1回目 調査		2回目 調査
A	B1	2016年 1月下旬 ~ 2月上旬	留学あり	
E				A2
C				
F	B1			
D	B1	留学なし	B2,C1	
B	B1		(2016.3 大学卒業)	

2. 2. タスク(テキスト朗読)

現代フランス語音韻論プロジェクト(PFC)のタスク

- Le premier ministre ira-t-il à Beaulieu ?

首相はボーリュウに行きますか？



- Le village de Beaulieu est en grand émoi.

ボーリュウ村はとても沸き立っています。



- Le maire de Beaulieu, Marc Blanc, est en revanche très inquiet.

ボーリュウの村長マーク・ブランは、それに反して大変不安を感じています。



2.3. 音声データの分析

1. 規範内的進歩の分析

経年的進歩(分節音・言い直し)

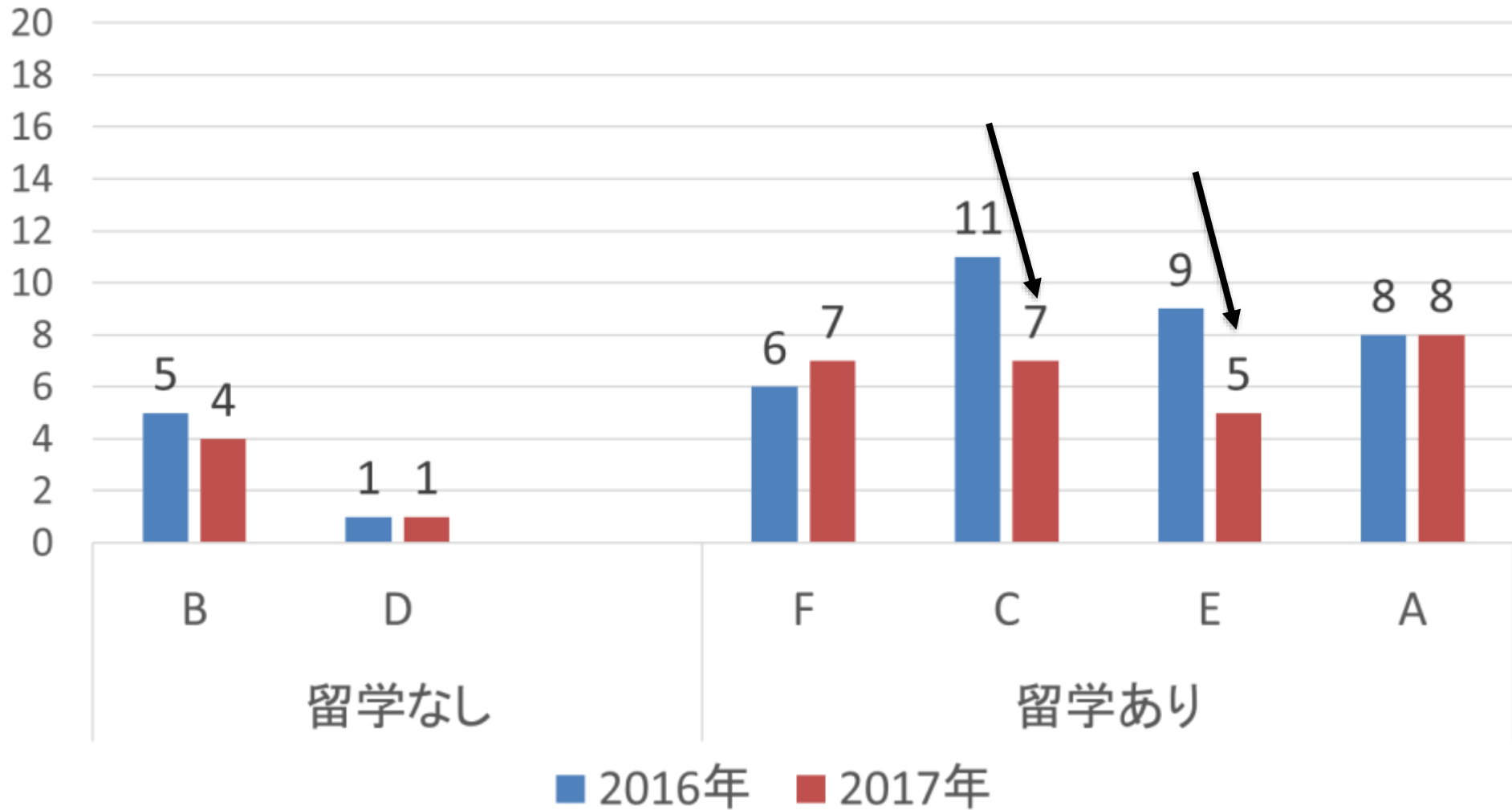
2. 規範外的進歩の分析

経年的進歩(知覚テスト)

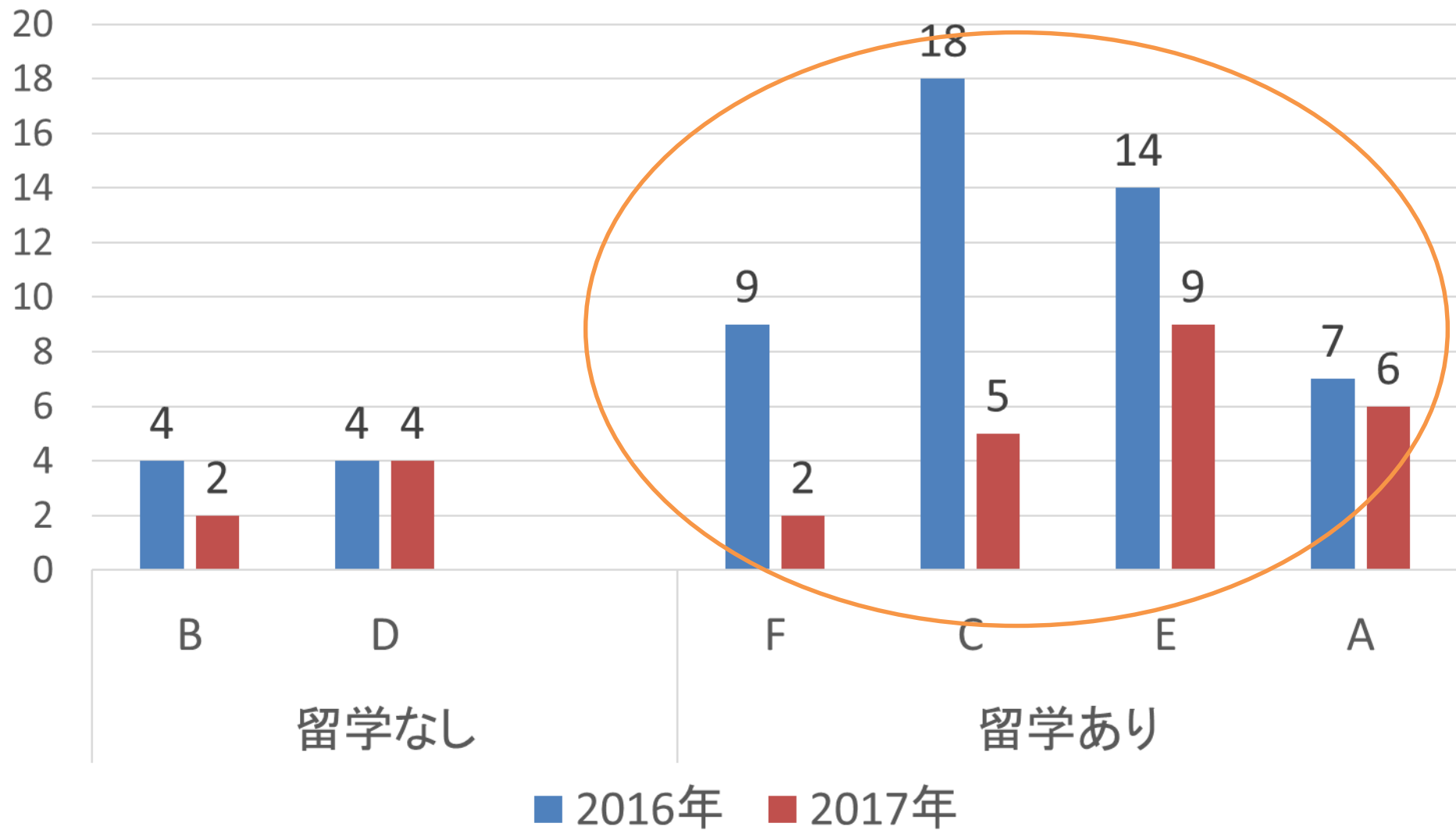
3. 経年的進歩の分析(分節音・言い直し) 規範内的進歩の分析方法

- 録音データを聞き非ネイティブ話者である3人(川口、関、伊藤)が非規範的発音の有無等を判定。
- 判定項目
 1. 子音の発音
 2. 母音の発音
 3. 言い直しの有無
- 2016年の調査と2017年の調査の結果を学生の留学期間などを対照しながら比較。

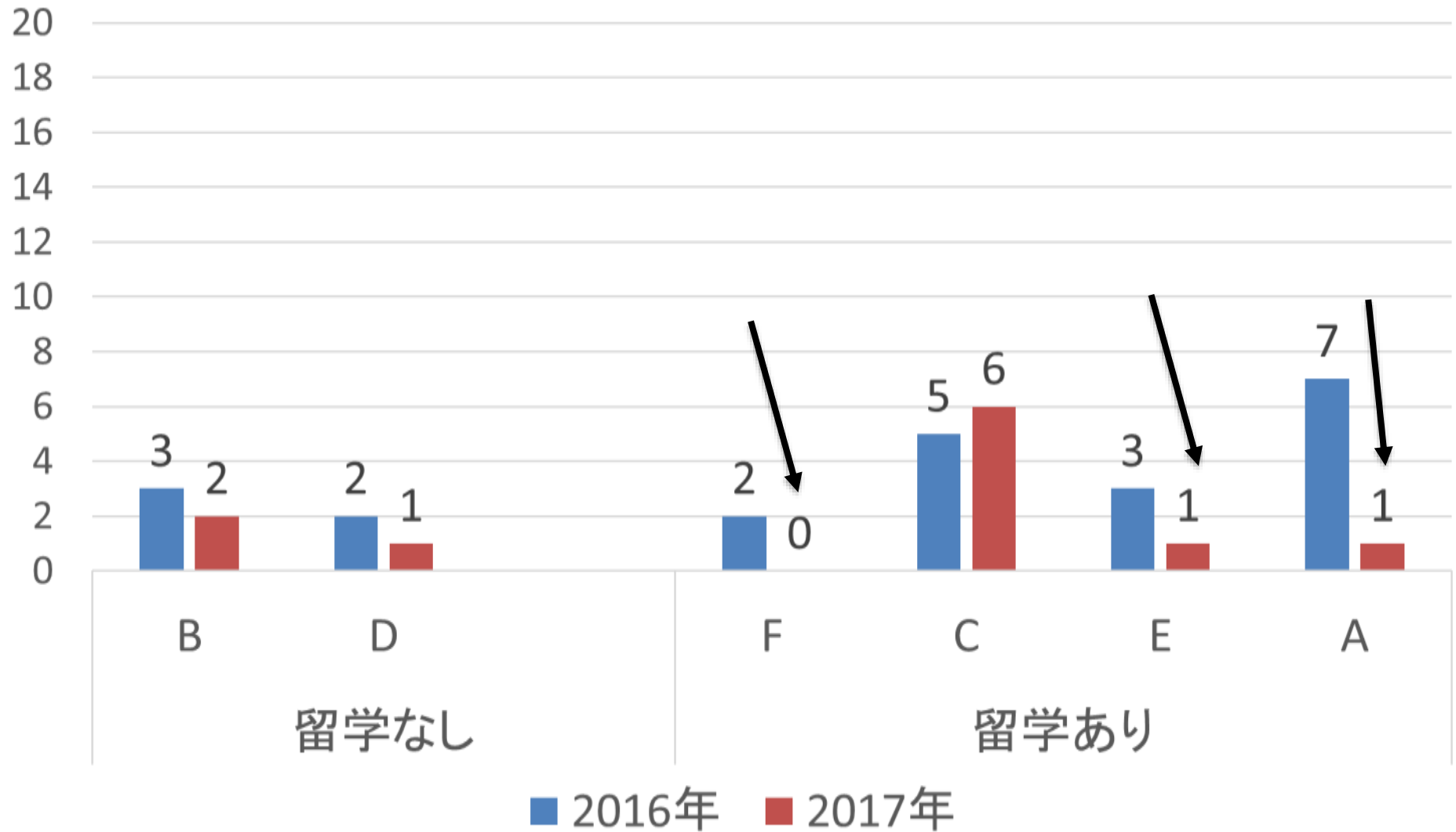
子音の非規範的発音



母音の非規範的発音



言い直し



経年比較

- 2016年の調査と2017年の調査を比較して、

調査項目	2回の調査の間に留学を経た4人の結果
子音	2人(CとE)は減少。しかし減り幅は大きくない。
母音	4人とも減少。子音より母音の方が留学を経た学生とそうでない学生との差が顕著。
言い直し	Cを除き3人は減少。特にAHは顕著に進歩している。

- 留学なしの2人については大きな変化なし。

主な非規範的発音の種類

	種類	具体例
子音	[v]と[l]の入れ替わり	village[vila:ʒ]→[viva:ʒ]、 aurait[ovɛ]→[ole]
	発音すべきでない 語末の子音を発音	entier[ãtje]→[ãtjev]、 inquiet[ɛkje]→[ɛkjet]
母音	[y]を[ə]と発音	du[dy]→[də]
	鼻母音	membre[mãbv]→[mẽbv]、 saint[sã]→[se][sã]
	発音すべきでない 母音の発音	notre[no:tɔ]→[no:tɔvɛ]、 grand[gvã]→[gʃvã]
英語の影響？		déclaré[deklavɛ]を[deklɔv]

非規範的発音の種類

誤りの種類	2回の調査の間の経年比較
[ʁ]と[l]の入れ替わり	2017年で改善する傾向あり。
déclaréを [deklʁ]	2017年でも非規範的発音のまま変化なし。
鼻母音の誤り	2017年でも非規範的発音のまま変化なし。
発音すべきでない母音の発音	2017年では改善する傾向あり。

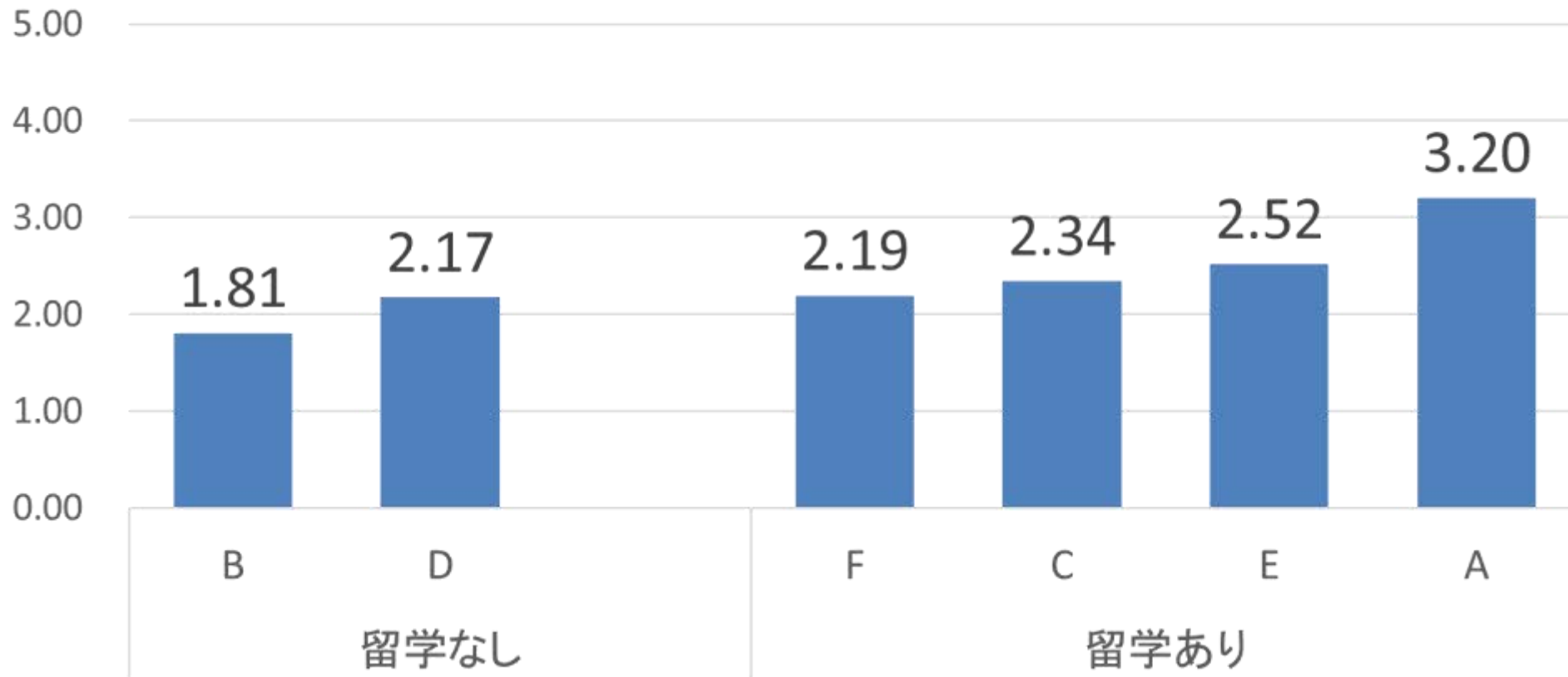
4. 進歩の知覚テスト

- 11人のフランス語母語話者に録音を聞かせて6段階で進歩が見られたかどうか評価した
 - (0点) 進歩しなかった
 - (1点) ほとんど進歩しなかった
 - (2点) あまり進歩しなかった
 - (3点) やや進歩した
 - (4点) かなり進歩した
 - (5点) 大幅に進歩した

例 : Le premier ministre ira-t-il à Beaulieu ?



各学習者の平均点(5点満点)



- 2.5点を上回っている学習者は2人だけ
- 進歩があまり見られなかった学習者が一人(話者B:1.81)
- かなり進歩したと評価された学習者が一人(話者A:3.20)
- 進歩していない学習者はいない。大幅に進歩した学習者もいない
- 学習者によって進歩の幅が異なる

学習者	進歩	調査①と調査②の間の学習期間	調査①と調査②の間の留学期間
B	1.81	2ヵ月	留学なし
D	2.17	12ヵ月	留学なし
F	2.19	12ヵ月	留学 2ヵ月
C	2.34	12ヵ月	留学 5ヵ月
E	2.52	12ヵ月	留学 4ヵ月
A	3.20	12ヵ月	留学 2ヵ月

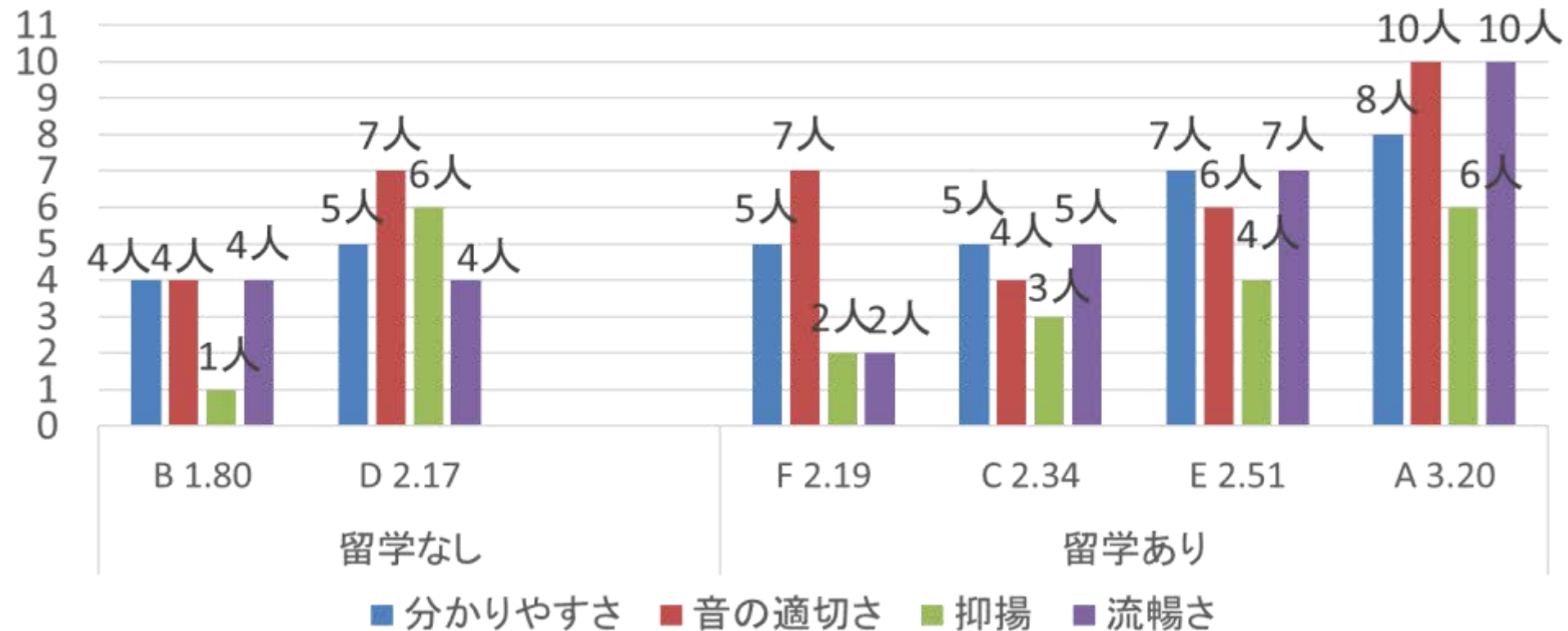
- Bさんは間に2ヵ月しか勉強していない → 評価が低い
- 間に留学した4人が一番進歩した。しかし、留学していないDさんと留学したFさんの評価はあまり差がない
- 留学期間の長さで進歩の大きさの間に関係性が見られなかった

- 評価者は各学習者の進歩を評価してから、次の表が出る(任意回答、複数回答可能)

学習者〇〇は何の 카테고리において「特に進歩した」か？何の 카테고리において「進歩しなかった」か？

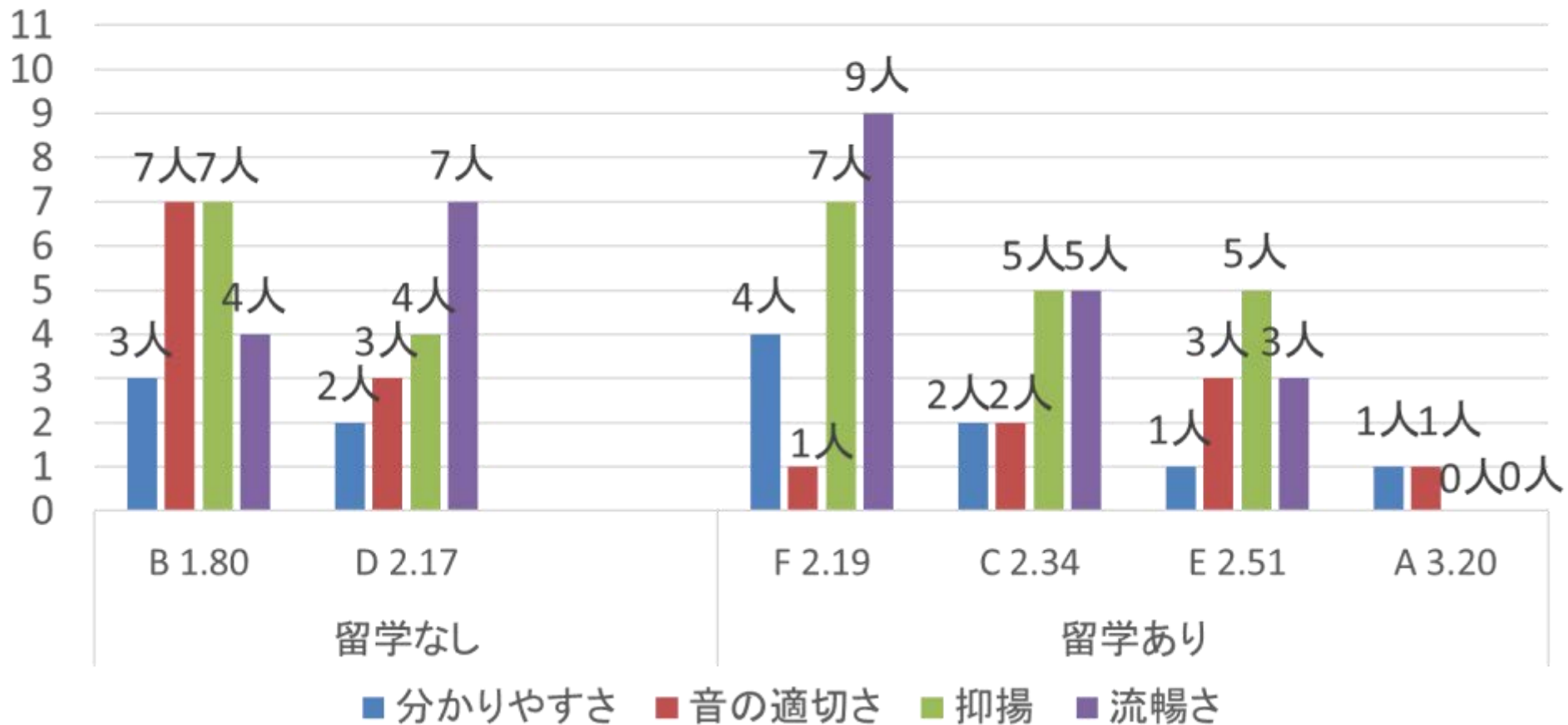
	分かりやすさ	音の適切さ	抑揚	流暢さ
特に進歩した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
進歩しなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

話者が特に進歩したカテゴリー



- 平均点が高いAさんは全てのカテゴリーにおいて大いに進歩した
- 「分かりやすさ」と進歩の順は同じ
- 「分かりやすさ」と「音の適切さ」は一番進歩が見られた

話者が進歩しなかったカテゴリー



- 平均点が一番低い3人は、どこかのカテゴリーにおいて「進歩しなかった」という意見が多かった(7人以上)。
- 「抑揚」と「流暢さ」は一番進歩が見られなかったカテゴリー

5. 結論

規範内的進歩:

経年的進歩の分析(分節音・言い直し)

規範外的進歩:

経年的進歩の分析(知覚テスト)



何らかの関係があるか?

留学したインフォーマント

- ・分節音(主に母音)の改善
- ・言い直しの減少 ⇒ 規範内的進歩あり
- ・知覚テストによる経年的進歩あり
⇒ 規範外的進歩あり

留学しなかったインフォーマント

- ・分節音や言い直しの数に大きな変化なし
⇒ 規範内的進歩低い
- ・知覚テストによる経年的進歩低い
⇒ 規範外的進歩低い

◆規範内的進歩 と 規範外的進歩

⇒ 概ね一致

◆分節音で大きな進歩が認められないが、
知覚テストでは音の適切さが進歩したと評価
(インフォーマントA)

⇒ フランス語母語話者の音の許容範囲
が広い

- ◆分節音や言い直しの変化が、知覚テストの分かりやすさ、音の適切さ、抑揚、流暢さと一対一に対応していない
 - ⇒ 複合的な要因により、進歩が評価される

参考文献

- Birdsong, D. (2003). Authenticité de prononciation en français L2 chez des apprenants tardifs anglophones : analyses segmentales et globales. *Acquisition et Interaction en Langue Étrangère* 18, 17-36.
- Cenoz, J. (2000). Research on Multilingual Acquisition. In J. Cenoz & U. Jessner (éd), *English in Europe. The Acquisition of a Third Language*, 39-53. *Bilingual Education and Bilingualism* 19, Multilingual Matters, Clevedon.
- Content, A. et al. (1986), Acquisition de la lecture et analyse segmentale de la parole. *Psychologica Belgica*, 26, 1-15
- Detey, S. & Kawaguchi, Y. (2008). "Interphonologie du Français Contemporain (IPFC) : récolte automatisée des données et apprenants japonais. Journées PFC : Phonologie du français contemporain : variation, interfaces, cognition", Paris, 11-13 décembre 2008.
- Detey, S. & Racine, I. (2012). Les apprenants de français face aux normes de prononciation : quelle(s) entrée(s) pour quelle(s) sortie(s) ? *Revue française de linguistique appliquée* 16-1 , 81-96.
- Detey, S., J. Durand, B. Laks & C. Lyche (eds.) (2016) *Varieties of Spoken French: a source book. With DVD*, Oxford University Press.
- Detey, S., I. Racine, Y. Kawaguchi, J. Eychenne (sous la dir.) (2017) *La prononciation du français dans le monde Du natif à l'apprenant*, CLÉ International.
- Durand, J., B. Laks & C. Lyche (eds.) (2009) *Phonologie, variation et accents du français*, Hermès.
- Ehri, L.C., & Wilce, L.S. (1980). The influence of orthography on readers' conceptualization of the phonemic structure of words. *Applied Psycholinguistics*, 7, 371-385.
- Fox, B., & Routh, D.K. (1975). Analyzing spoken language into words, syllables and phonemes: A developmental study. *Journal of Psycholinguistic Research*, 4, 331-342
- Houdebine, A. (1975). La prononciation du français contemporain. L'oral et ses normes. Quelques notes de lecture. *Repères pour la rénovation de l'enseignement du français à l'école élémentaire* 31, 122-124.
- Larsen-Freeman, D. & Long, M. H. (1991) *An introduction to second language acquisition research*, Longman.
- Trévisiol, P. (2006) Influence translinguistique et alternance codique en français L3. Rôles des L1 et L2 dans la production orale d'apprenants japonais. *Acquisition et interaction en langue étrangère* 24, 14-43.
- 大岩昌子 (2012)、「第三言語習得に影響を及ぼす要因の研究：フランス語を対象言語として」、『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 No.42、pp.81-97

謝辞

本研究は、

JSPS科研費 16H03442「フランス語、ポルトガル語、日本語、トルコ語の対照中間言語分析」, 基盤研究B, 2016-2019,
代表者 川口裕司

の助成を受けたものです。